

## バースプランに見る

### 母親のニーズと看護ケアの検討

羽島市民病院	新見奈津江	浅野みゆき
	中島智恵子	
岐阜県立看護大学	服部律子	堀内寛子
	諸岡豊子	藤迫奈々重

#### 【はじめに】

我が国の施設内分娩は、1950 年以来増加の一途をたどり、1998 年には 99.8%となっている。医学的管理が進む中で、お産そのものを施設へ依存する傾向が強まり、同時に妊婦の主体性も徐々に低下するなどの問題も生じてきている。羽島市民病院産婦人科では、妊産婦に主体的に出産に取り組み、満足のいくお産を提供するために、平成 11 年度よりバースプランに取り組んできた。より、一人一人のニーズにあったお産を提供するために、今回これまでの、バースプランのアンケートを集計し、振り返り検討した。

現在、バースプランの振り返りと、その後の育児への影響について、アンケートによる追跡調査を行い、集計中である。そのため、今回は途中経過として、バースプランによる結果のみを報告する。

#### 【目的】

羽島市民病院産婦人科で実施している「バースプラン」の記録から、母親が病院で出産に際してどのようなニーズがあるかを把握し、今後の看護ケアを検討する上での資料とする。

#### 【対象・方法】

対象:H11 年 3 月から、H12 年 4 月までに、羽島市民病院産婦人科外来で行ったバースプランのアンケートに回答のあった 321 名

方法:H11 年度から、H 病院産婦人科外来通院中の、妊娠 36 週の妊婦に対し、助産婦外来受診時アンケート調査を行っている。今回はその結果をまとめた。

#### 【結果・考察】

##### 1. 基本属性

対象は、初産婦 175 名、経産婦 146 名であった。平均年齢は 30.3 歳、平均分娩週数 39 週 3 日であった。平均児体重は 3154g であった。胎位は、第 1 頭位 316 名 (98.4%)、第 2 頭位 4 名 (1.2%) 骨盤位 1 名 (0.3%) であった。分娩様式は、最も多か

ったのが、正常分娩 243 名 (75.7%) つづいて吸引分娩 46 名 (14.3%) の順であった。(表 1)

表 1 基本属性

	全体	初産	経産
	321	175(54.5)	146(45.5)
	N=321		
年齢	mean±sd	30.3±3.8	
分娩週数	mean±sd	39.3±1.1	
児体重	mean±sd	3154.2±400.2	
胎位	第 1 頭位	316(98.4)	
	第 2 頭位	4(1.2)	
	骨盤位	1(0.3)	
分娩様式	正常分娩	243(75.7)	
	吸引分娩	46(14.3)	
	鉗子分娩	7(2.2)	
	帝王切開	25(7.8)	

##### 2. 運動・食事・助産婦外来・両親学級・

里帰り分娩についての初産・経産比較(表 2)

	初産婦 N=175	経産婦 N=146
食事に気をつかう	98 名 (56%)	62 名 (42%) *
運動に気をつかう	118 名 (67%)	103 名 (71%)
助産婦外来受診希望	112 名 (64%)	91 名 (62%)
両親学級受講希望	114 名 (65%)	76 名 (52%) *
里帰り分娩	69 名 (39%)	28 名 (19%) ***

P<0.05=\* P<0.001=\*\*\*

妊娠中運動に気を使っている人は、初産婦 98 名 (56%) 経産婦 62 名 (42%) であった。食事に気を使っている人は、初産婦 118 名 (67%) 経産婦 103 名 (71%) であり、運動に気を使っている初産・経産間でカイ 2 乗検定で有意差 (P<0.05) を認めた。助産婦外来受講希望は、初産婦 112 名 (64%)、経産婦 91 名 (62%)・両親学級受講希望は、初産婦 114 名 (65%)、経産婦 76 名 (52%)、里帰り出産希望は、初産婦 69 名 (39%)、経産婦 28 名 (19%) であり、両親学級受講 (P<0.05)、里帰り分娩希望 (P<0.001) に有意差を認めた。父親の参加や里帰りの希望は、初産婦の方が経産婦に比べ希望する人が多いことがわかった。

運動の内容については、初産婦、経産婦ともに、最も多かったのが手軽な「散歩」であった。

(表 3)

##### 3. 陣痛室での付き添い希望の初産・経産比較

(表 4)

陣痛室での付き添い希望は「あり」が初産婦 143(82%)、経産婦 117(80%)であった。付き添って欲しい人は初産婦では夫 145 名、続いて実母 67 名の順であった。経産婦では夫 76 名、次いで実母 42 名、子ども 18 名の順であった。初産婦・経産婦に関係なく、8 割以上の人々が陣痛室での付き添いを希望しており、その中で夫に付き添ってほしいという希望が多いことがわかった。

表 3 運動内容 (記述回答があった内容)

	初産婦	経産婦
散歩	75	41
エアロビクス	0	1
体操	0	2

表 4-1 陣痛室での付き添いについての初産・経産比較

	初産婦 (N=175)		経産婦 (N=146)	
	あり	なし	あり	なし
付き添い希望	143(82%)	32(18%)	117(80%)	29(20%)

表 4-2 陣痛室付き添い者の内訳

	(記述回答があった内容)	
	初産婦	経産婦
夫	145	76
実母	67	42
姉	8	1
子ども		18

#### 4. 陣痛の緩和方法についての初産・経産比較 (表 5)

陣痛緩和についての、具体的方法について初産婦と経産婦で比較した。結果「陣痛の緩和のために何かしたい」と答えたものが、初産婦 113 名(65%)、経産婦 92 名(63%)であった。具体的な方法については、初産婦・経産婦ともに「呼吸法」が最も多く、つづいてマッサージの順であった。

#### 5. 分娩室立会い希望についての、初産・経産比較 (表 6)

分娩室立会い希望を、初産婦・経産婦で比較した結果、初産婦 73 名(42%)、経産婦 44 名(30%)と初産婦が有意に多かった(P<0.05)。しかし全体的には陣痛室での付き添い希望よりも少なく、3~4 割前後となった。分娩室立会い者の内訳としては、初産婦・経産婦ともに「夫」が最も多かつ

た。初産婦では続いて、「実母」、経産婦では、「子ども」が多かった。

表 5-1 陣痛緩和についての初産・経産比較

	初産婦 (N=175)		経産婦 (N=146)	
	あり	なし	あり	なし
陣痛緩和希望	113(65%)	62(35%)	92(63%)	54(37%)

表 5-2 陣痛緩和方法内訳

	(記述回答があった内容)	
	初産婦	経産婦
呼吸法	83	73
マッサージ	76	47
歩く	23	11
音楽	23	11
シャワー	1	2

表 6-1 分娩室立会い希望についての初産・経産比較

	初産婦 (N=175)		経産婦 (N=146)	
	あり	なし	あり	なし
立会い希望*	73(42%)	102(58%)	44(30%)	102(70%)

\*P<0.05

表 6-2 分娩室付き添い者の内訳

	(記述回答があった内容)	
	初産婦	経産婦
夫	58	28
実母	9	6
姉	0	0
子ども	0	13
友人	1	0

#### 6. 分娩立会い者への期待についての

##### 初産・経産比較(表 7)

分娩立会い者への期待について、初産婦・経産婦で比較した。「期待する」と答えたものは、初産婦 49 名(28%)経産婦 23 名(16%)で初産婦が有意に多かった(P<0.05)が全体的には 3 割に満たなかった。内容として、初産婦で最も多かったのは、「手を握る」続いて「側にいる」の順であった。経産婦では、「側にいる」が最も多く、続いて「手を握る」の順で、初産婦・経産婦ともに、消極的な関わりへの期待にとどまった。本人も分娩室で

は、何をしてもらったらいいのか、具体的な事がイメージできにくいのではないかと推測する。

表 7-1 分娩室立会い者への期待についての  
初産・経産比較

	初産婦 (N=175)		経産婦 (N=146)	
	あり	なし	あり	なし
付添い期待*	49 (28%)	126 (72%)	23 (16%)	123 (84%)

\*P<0.05

表 7-2 期待の内訳

	(記述回答があった内容)	
	初産婦	経産婦
呼吸法	7	4
手を握る	24	8
マッサージ	5	3
側にいる	22	13
励ます	5	1

## 7. 分娩スタイルの希望の有無についての

### 初産・経産の比較(表 8)

分娩時のスタイルを「希望する」と答えたものは、初産婦で 37 名(21%)、経産婦で 32 名(22%)であった。初産婦・経産婦ともに分娩スタイルへの希望をもっているものは 2 割程度にとどまった。内容としては、初産婦は「自分にあったスタイル」が最も多く、続いて「ベッドで産みたい」、「普通に産みたい」の順であった。経産婦では、「ベッドで産みたい」が最も多く、次に「自分にあったスタイル」、続いて「横向き」の順であった。初産婦・経産婦ともに、「自分にあったスタイル」という漠然としたものが多く、これまでの分娩台の上での、仰臥位分娩のイメージが強く、その他のフリースタイルのイメージがつきにくいのではないかと考えられる。分娩スタイルについては、母親学級などを通して具体的な説明や指導を加え、本人に多くの選択肢の中から希望出来るような工夫が必要と考える。

## 8. 分娩時の母親の希望項目に関する

### 初産・経産比較(表 9)

分娩時に実施できる項目をあげ、希望の有無について聞いた結果、初産婦では「出生直後の写真撮影」144 名(82.3%)、「出生直後の児との家族の接触」116 名(66.3%)「沐浴前の抱っこ」115 名

(65.7%)、「分娩直後の直母」100 名(57.1%)の希望が多かった。経産婦では、「出生直後の写真撮影」112 名(76.7%)が最も多く、続いて「沐浴前の抱っこ」84(57.5%)、「出生直後の児との家族の接触」76 名(52.1%)の順であった。

初産婦、経産婦の比較では、分娩直後の直母と出生直後の児の家族との接触の項目に有意差を認め、経産婦に比べ初産婦の希望が多いことがわかった。しかし、初産婦、経産婦ともに、沐浴前の抱っこの希望は、6 割前後、また分娩直後の直母の希望も経産婦では 4 割程度にとどまり、分娩直後からの児との早期接触の重要性や必要性について再度検討し、母親たちのニーズにどう対応していくか考える必要がある。

表 8-1 分娩スタイルの希望の有無についての  
初産・経産比較

	初産婦 (N=175)		経産婦 (N=146)	
	あり	なし	あり	なし
スタイル希望	37 (21%)	138 (79%)	32 (22%)	114 (78%)

表 8-2 スタイルの内訳

	(記述回答があった内容)	
	初産婦	経産婦
横向き	2	6
ベッドで産む	9	12
自分にあう	18	11
不明	1	2
普通に	8	2

表 9 分娩時希望に関する、初産・経産比較

	初産婦 (N=175)		経産婦 (N=146)	
	希望あり	希望なし	希望あり	希望なし
出生前児との接触	34 (19.4)	141 (80.6)	26 (17.8)	120 (82.2)
分娩時児を見る	25 (14.3)	150 (85.7)	18 (12.3)	128 (87.7)
産湯前だっこ	115 (65.7)	60 (34.3)	84 (57.5)	62 (42.5)
分娩直後に直母	100 (57.1)	75 (42.9)	63 (43.2)	83 (56.8) **
出産後家族と接触	116 (66.3)	59 (33.7)	76 (52.1)	70 (47.9) **
出産直後記念撮影	144 (82.3)	31 (17.7)	112 (76.7)	34 (23.3)
胎盤を見る	64 (36.6)	111 (63.4)	45 (30.8)	101 (69.2)
洗腸・剃毛・導尿	20 (11.4)	155 (88.6)	10 (6.8)	136 (93.2)

P<0.05\*\* P<0.001\*\*\*

## 9. 分娩後の母親の希望項目に関する

### 初産・経産比較(表 10)

分娩後実施可能な事項についてあげ、その希望について質問し、初産婦・経産婦で比較した。初産婦では、「母乳哺育」158名(90.3%)、「ミルクの補足」108名(61.7%)、「夫や家族への沐浴指導」104名(59.4%)の希望が多かった。経産婦では、「母乳哺育」119名(81.5%)が最も多く、続いて「ミルクの補足」97名(66.4%)の順であった。初産婦・経産婦の比較において、「分娩早期からの同室」(P<0.001)、「母乳哺育」(P<0.05)、「夫や家族への授乳指導」(P<0.001)、「夫や家族へのオムツ交換指導」(P<0.001)、「夫や家族への沐浴指導」(P<0.001)、「夫や家族への退院指導」(P<0.001)に有意差を認め、経産婦に比べ初産婦の希望が多いことがわかった。経産婦では、母親自身育児の経験知識があり、夫や家族への技術的な指導の必要性を強く感じていないことが示唆された。また、分娩直後からの同室を希望しているものは、43名(29.5%)にすぎず、分娩後の疲労の経験からか、分娩直後は児との接触より母親自身の身体的疲労の軽減に努めたい希望が多いことがわかった。

表 10 分娩後の希望に関する、初産・経産比較

	初産婦 (N=175)		経産婦 (N=146)	
	希望あり	希望なし	希望あり	希望なし
早期の母子同室	64(49.1)	111(50.9)	43(29.5)	103(70.5) ***
母乳哺育	158(90.3)	17(9.7)	119(81.5)	27(18.5) *
ミルクの補足	108(61.7)	67(38.3)	97(66.4)	49(33.6)
家族へ授乳指導	79(45.1)	96(54.9)	16(11)	130(89.0) ***
家族へオムツ交換指導	89(50.9)	86(49.1)	23(15.8)	123(84.2) ***
家族へ沐浴指導	104(59.4)	71(40.6)	26(17.8)	120(82.2) ***
家族へ退院指導	82(46.9)	93(53.1)	21(14.4)	125(85.6) ***

P<0.05=\* P<0.001=\*\*\*

### 【結論】

1. 陣痛室での付き添いは、初産婦、経産婦ともに4割前後が希望していたが、分娩室での立ち会い希望は、初産婦で4割程度、経産婦では3割であった。
2. 陣痛室、分娩室ともに、付き添い者の希望は夫が最も多かった。
3. 分娩室の立ち会い、立ち会い者への援助期待で

は、経産婦より、初産婦の希望が多く、手を握る、側にいるなど消極的な期待であった。

4. 分娩時のスタイルの希望は、初産婦・経産婦ともに、2割程度であった。
5. 分娩後の希望では初産婦・経産婦ともに出生直後の写真撮影の希望が最も多かった。分娩直後の直母と出産直後の家族との接触希望は初産婦が有意に多かった。
6. 家族指導への希望は経産婦に比べ初産婦の希望が明らかに多かった。

### 【まとめ】

初産婦、経産婦のバースプランに対する、意識や希望の傾向を踏まえ、より個別の希望に応じた出産ができるような体制づくりが必要である。また、本人のみならず夫や家族を含めた、より具体的な指導や教育を考え、個別に応じた助言を、必要に応じ実施していく必要がある。さらに、バースプランを、妊娠中から出産後を通して、母親とともに評価、修正しあい、母親自身が自らの「バースプラン」を構築し、より満足できる出産ができるよう援助する必要がある、今回の結果を基に今後引き続き検討を加えていきたい。